

もしものときのために「人生会議」

～自らが望む、人生の最終段階の医療・ケアについて
周囲の信頼する人と話し合ってみませんか～

誰でも、命に関わる大きな病気やケガをする可能性があります。命の危険が迫った状態になると、約70%の方が、医療やケアなどを自分で決めたり、望みを人に伝えたりすることができなくなると言われています。

自らが希望する医療やケアを受けるために大切にしていることや望んでいること、どこでどのような医療やケアを望むかを自分自身で前もって考え、周囲の信頼する人たちと話し合い、共有することが重要です。

※この取り組みは、個人の意思や判断で進めるものです。知りたくない、考えたくない方への十分な配慮が必要です。

※心身の状態に応じて、意思は変化することがあるため、何度でも繰り返し考え、話し合いましょう。



考えてみませんか？

もし生きることができる時間が限られているとしたら、
あなたにとって大切なことはどんなことですか？
以下の中にあてはまることはありますか。



- 家族や友人のそばにいること
- 仕事や社会的な役割が続けられること
- 身の周りのことが自分でできること
- できる限りの医療が受けられること
- 家族の負担にならないこと
- 痛みや苦しみがないこと

- 少しでも長く生きること
- 好きなことができること
- ひとりの時間が保てること
- 自分が経済的に困らないこと
- 家族が経済的に困らないこと
- ・・・など

なぜそう考えたのか、思いや価値観を信頼できる人が知っておくことは、あなたの代わりに治療や介護について難しい決断をする場合に、重要な助けになります。



地域包括支援センターでは、在宅医療と介護連携の推進を勧めています。

在宅医療や介護のご相談がある方は、地域包括支援センターまでご相談ください。

相談・問合せ先

地域包括支援センター ☎32-0661

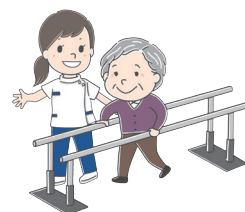


当院のリハビリテーション科は、今年4月に作業療法士1名が採用され、理学療法士4名と合わせて計5名のスタッフが、患者さんの症状に応じてさまざまなリハビリテーションを行なっています。

理学療法とは？

病気やけがなどにより運動機能が低下した状態にある方に対し、基本的な動作能力の回復を主な目的として、歩行練習やストレッチなどの運動に加え、温熱や電気などの物理的手段を用いて行なわれる治療法のことです。

ここでいう基本的な動作能力とは、寝返りをうつ、起き上がることから、立ち上がったたり歩いたりすることなどが挙げられます。



作業療法とは？



作業療法は、病気や年を重ねることで生じる問題などの影響により、その人らしい日常生活を送るのが難しくなっている人に対し、健康で幸せでいられるように「作業」に焦点を当てた治療・援助を行なうものです。

この「作業」というのは、食事やトイレ、家事などの日常で必要となる活動のことで、ゲーム、体操などもリハビリの手段として用いています。

このような支援を行なっています

- ▶ 4月から一部の入院患者さんを対象に、土曜日もしリハビリテーションを開始しており、住み慣れた自宅などに退院できるよう支援しています。
- ▶ ご自宅に退院される予定の入院患者さんに対し、必要に応じて退院前にご自宅へ訪問し、退院後の生活における注意点などを指導しています。
- ▶ 外来では、平日の診療時間内においてリハビリテーションを行なっており、患者さんの体力、筋力の維持向上に努めています。



4月に採用されました、作業療法士の
小林 知良(こばやし ちから)です。
どうぞよろしくお願いします。